

### ユニバーサルデザイン

この4月から障害者差別解消法がスタートしました。行政機関だけでなく、民間事業者も不当な差別扱い(サービス拒否・入店拒否など)が禁止、合理的な配慮(筆談や読み上げで伝えるなど)が求められるようになりました。

タイトルの『ユニバーサルデザイン』は障害の有無などにかかわらず、誰もが等しく使いやすいように、安全で便利な街づくり環境づくりを実現しようとする考え方です。

本校でも、2年前から、『ユニバーサルデザイン』を学校の教育に取り入れようと試みているところです。たとえば道具の片づけ方がわかるように絵や写真で表したり、集中が難しい子のために黒板の周りの学級目標などを極力省いてすっきりとしたりなどです。

肝心の授業でもそうです。

- ・具体的な課題・めあて(勉強する中身を知らせる)
- ・授業の流れを示す(まず…、次に…、終わりに…)
- ・聴覚支援と視覚支援(言って示し、黒板に書いて示し…)



見通しが持てないと不安になったり、集中が続かなかったりする特性の子がいます。聞いて理解するのが得意な子もいれば、見て理解するのが得意な子もいます。集中力の持続は大人でも45分程度と言われています。めあてや授業の流れを示すだけでなく、単調にならないよう、隣と話し合ったり、途中で別の活動を加えたりなどの工夫をしています。

また、子どもによっては、『言語面は劣っていないが、計算スピードが遅い』、『理解が速いが記憶にとどまりにくい』、『聴覚が過敏で大勢の中では気が散る』など様々な特徴のある子もいます。そういった子のために、「にじいろルーム」「るりいろルーム」などでの学習を行っています。より特徴的な個性のある子には、フラワー学級があります。それぞれにあった学習環境の中でがんばれるように願っているのです。

11月は、学校開放月間です。参観の際には是非いろいろな教室を回っていただき、その子に応じた課題でがんばっている貴志南の子たちの姿をご覧ください。

《学校長》

貴志南小学校では、ホームページを設けています。<http://www9.wakayama-wky.ed.jp/kishiminami/>

※写真等は児童個人を特定できないように配慮しています。